



高浜市長 吉岡初浩

平成30年度 施政方針・当初予算



平成30年度に向けて

「どんな人にも、探し出してくれば、その人だけに与えられている尊い天分というものがある。その天分で、世の中にサービスをすればよいのである。サービスのよい社会は、みんなが多く与え合っている社会で、だからみんなが身も心も豊かになる。」という松下幸之助さんの言葉、また、日本初のロケットを打ち上げた工学博士の糸川英夫さんが晩年おっしゃっていた「個在共存」。「皆さんどこかで個々役割があり、それが社会で共存していく」ということです。いずれの言葉も私が申しあげてきた「まちのことは自分ごと」と共通しています。ここで暮らしていくにあたり、自分には何ができるかということをご皆さんが考えれば高浜市はかならずよくなる、住み続けたいまちになる、というのが私の信念です。

後期基本計画スタート

折しも、平成30年度からは「第6

次高浜市総合計画（計画期間2011～2021）」の「後期基本計画（計画期間2018～2022）」が始まります。

これまで「第6次高浜市総合計画」策定から進行管理に携わっていただいた市民はのべ約450人。まさに市民と行政が共に創り、実行し、育てあげてきた計画です。「後期基本計画」では、4つの基本目標に基づき、高浜市のまちづくりについて、むこう4年間どのように取り組み、課題を解決していくかを示しています。

平成30年当初予算策定

また、この計画を裏付ける財源として平成30年度予算編成方針を「未来へつなぐスタート予算」とし、歳入面では新たな財源の獲得に全力を挙げ、歳出面では「事業の見直しと重点化」、「現場主義とトップマネジメントの視点」、「重点取り組み事項への財源配分」という3つの基本的な考え方を掲げ編成しました。なお「重点取り組み事項」とは、徴収率の向上・公共施設総合管理計画の推進・情報発信の強化・行政内部事務の省力化・安心な子育て環境・ICT教育・教育環境向上・企業誘致・産業振興・防災力強化・地域包括ケ

アシSTEMの構築につながる事業とします。

これからの高浜市のために

現在、社会は大変なスピードで変化しています。無人の自動車運転やAIとプロ棋士との対戦など、最新のデジタル技術がマスコミで紹介されない日はなく、10年後、20年後の暮らしや仕事は想像もできないくらい変化するでしょう。こうしたなか、現役世代の私たちは、この高浜市を責任を持って将来に引き継いでいかなければなりません。それには、まちづくりの主役である市民・地域と、事業者・関係機関・議会・行政がそれぞれの役割を担い「まちの事を自分ごととして考え、自分には何ができるかということを考え行動できる」市民の方を増やし、未来に向けてまちづくりの歩みを地道に進めていくことこそが、課題解決の唯一の手段といえます。

私たち現役世代だけでなく、将来世代にも理想とされる高浜市の未来に向かい、全庁一丸となって邁進します。

※本文は市議会3月定例会で行った施政方針演説を要約したものです。